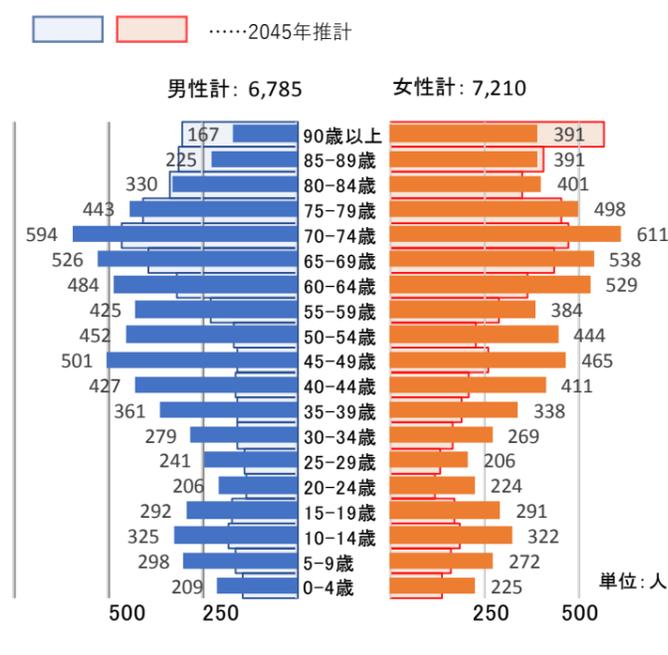


1 人口構造

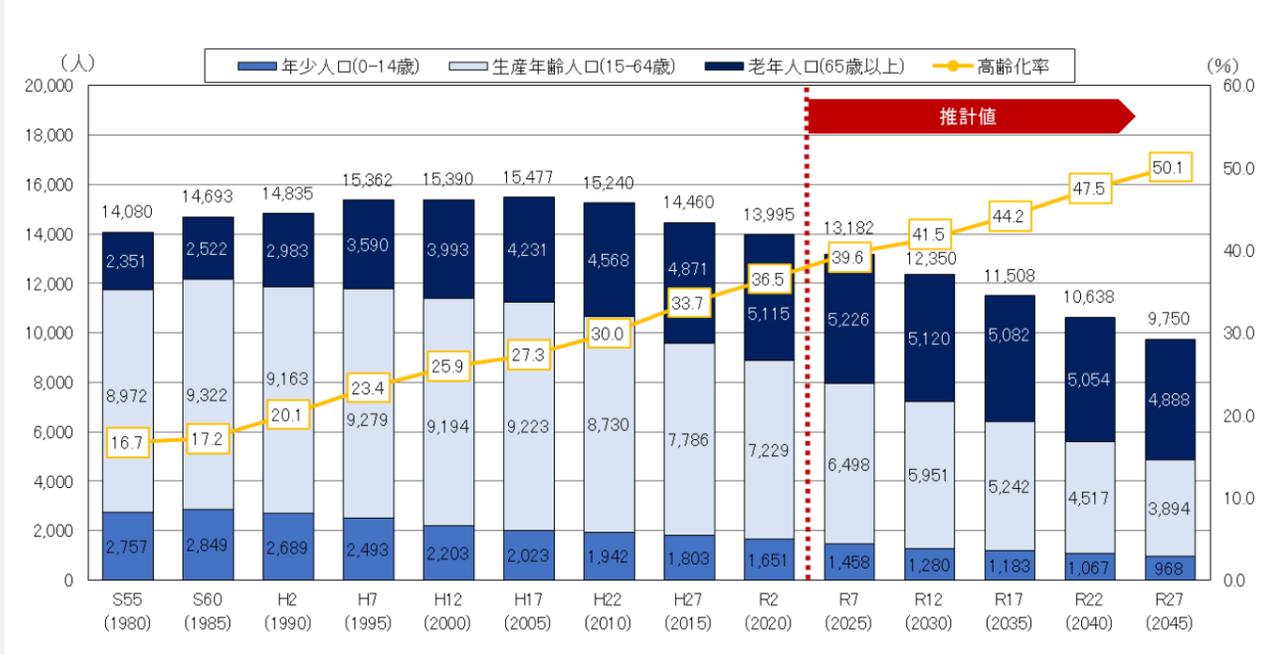
① 地域活動や産業の担い手が不足

- 20～30歳代の人口が少なく若者の流出が懸念される。(図表1-1)
- 将来人口推計をみると、老年人口は微減から横ばいで推移する一方、年少人口・生産年齢人口は大きく減少する。(図表1-2)
- 全人口に占める生産年齢人口の割合が低下し、地域活動や産業の担い手不足やひとりあたりの行政コストの増加が見込まれる。



図表1-1 人口ピラミッド (2020年実績人口)

出典: 総務省「国勢調査」令和2年、2045年推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」の試算を2020年の人口実績をベースに再計算した

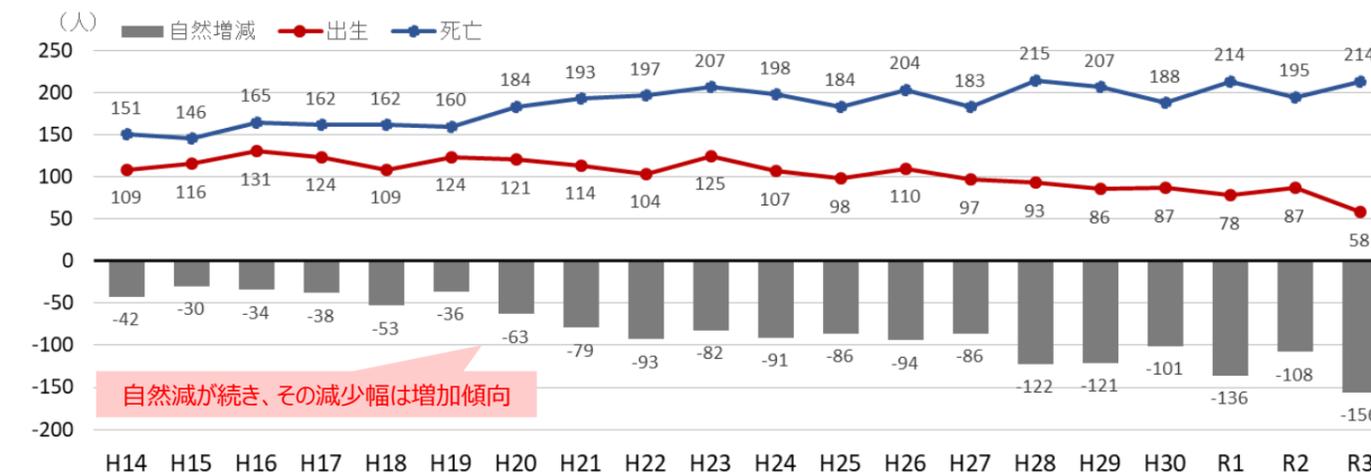


図表1-2 3区分年齢人口の推移・推計

出典: 2020年まで総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」の試算を2020年の人口実績をベースに再計算した推計値

② 多死社会に向かい、住宅・土地などの空洞化が懸念される

- R3年において、年間の出生者は58人、死亡者は214人で、156人の自然減となっている。自然減の割合はこの20年で増加傾向にある。(図表1-3)
- 今後は、出生数が減少する一方、死亡者数は当面微増の傾向が続くと見込まれ、2045年頃には死亡者数が出生数の約4倍となる。(図表1-4)
- 出生数の減少・死亡者数の増加による多死社会の傾向が進むことで、住宅・土地(農地)など利用されないストックが生じると懸念される。



図表1-3 出生数と死亡数の推移

出典: 長野県「毎月人口異動調査」

死亡者数が出生数の4倍となる

(人)

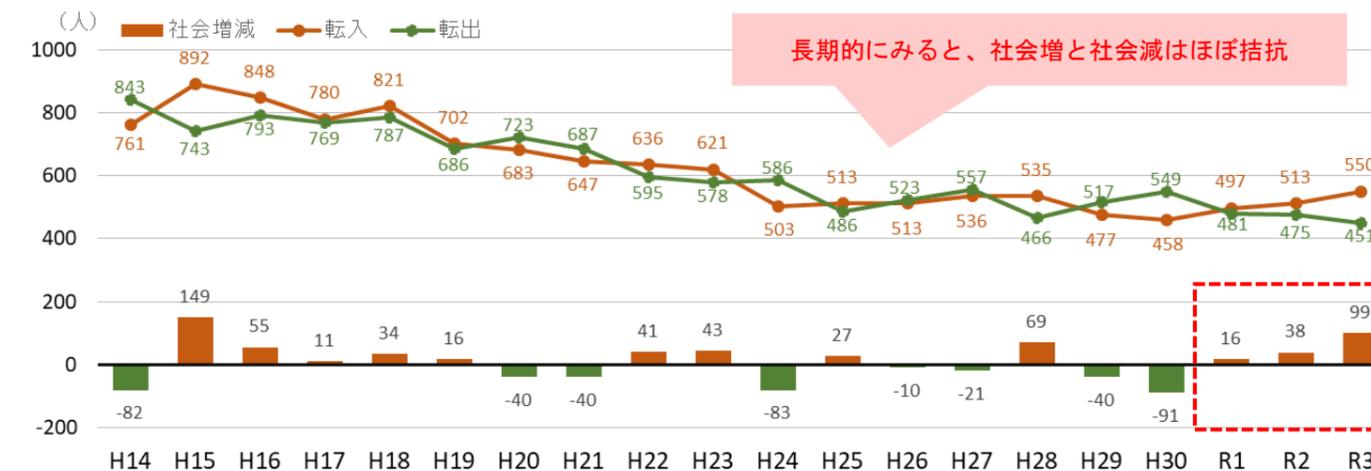
区分	出生数	死亡数	死亡数÷出生数
~2025	420	1,072	2.55
~2030	377	1,084	2.88
~2035	339	1,114	3.28
~2040	306	1,158	3.78
~2045	280	1,122	4.01

図表1-4 出生数と死亡数の推計 (5年ごと)

出典: 内閣府提供人口推計ワークシート(国立社会保障・人口問題研究所)による試算

③ 転出と転入は拮抗、直近は転入超過

- 過去20年間の数値をみると、転入と転出による社会増減は概ね拮抗している。直近の3年は社会像が続いており、その増加幅も大きくなっている。(図表1-5)
- 自然減によって今後さらに人口減少が加速することが避けがたいと見込まれるなか、転入促進・転出抑制によって社会増をはかることの重要性はより高くなるといえる。



図表1-5 転入数と転出数の推移

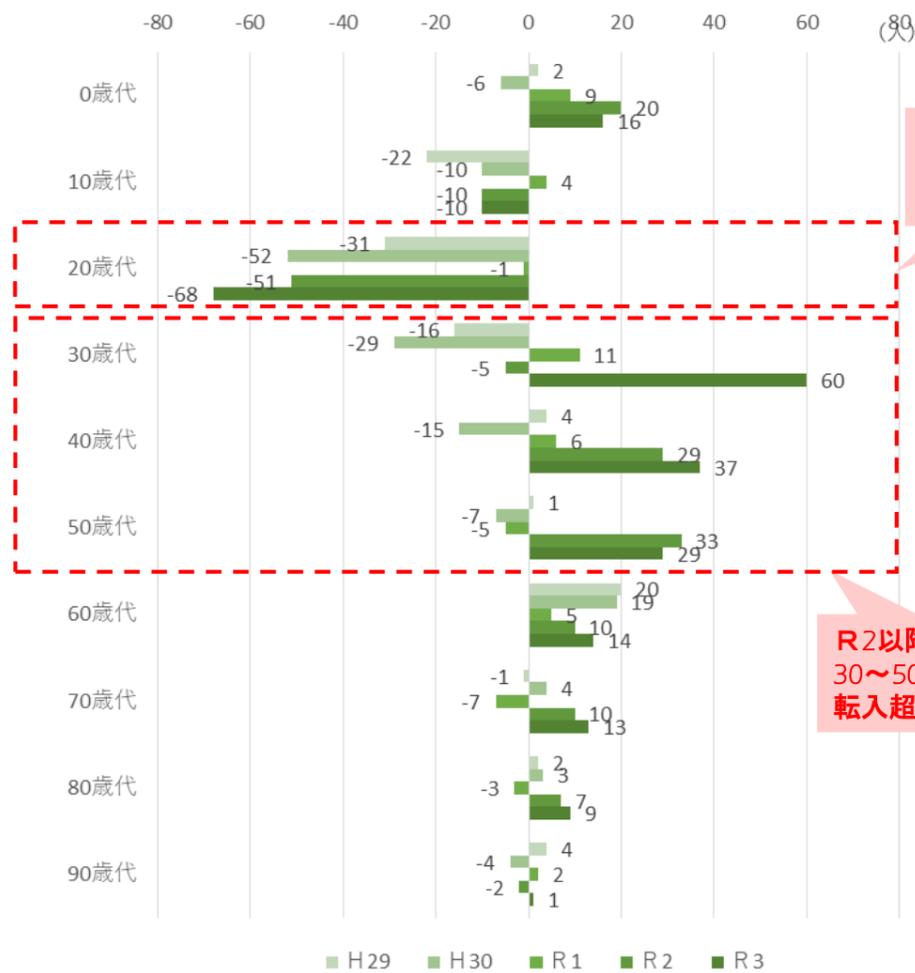
出典: 長野県「毎月人口異動調査」

転出入者の詳細状況

① 世代では20代で大きく流出
R2～3年度では30～50代の生産年齢層が流入

② 男女別で見ると女性20代の流出が大きい
30代以上の流入では男女はおおむね同じ傾向

世代ごとの転入・転出者数



20代の流出が続いている

R2以降で30～50代の転入超過が拡大

5ヶ年度（H29～R3）の転入・転出者数の合計 (人)

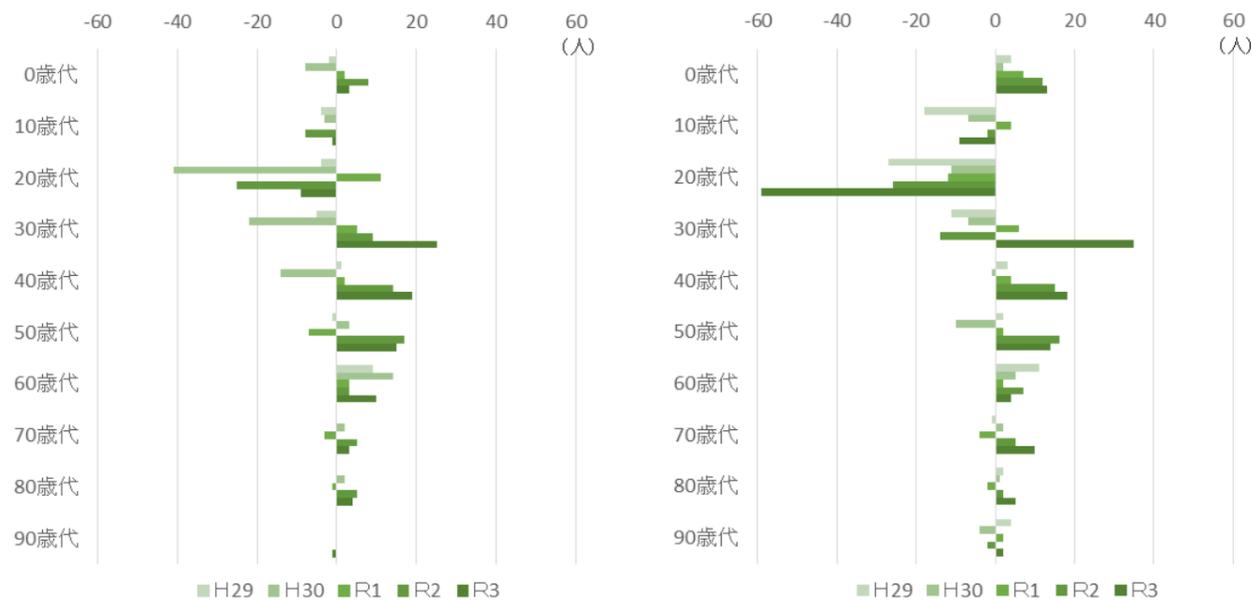
年代	転入	転出	差
0歳代	113	110	3
10歳代	64	80	-16
20歳代	406	474	-68
30歳代	286	274	12
40歳代	186	164	22
50歳代	99	72	27
60歳代	85	46	39
70歳代	41	34	7
80歳代	17	7	10
90歳代	3	4	-1

20代女性の流出が同世代男性に比べて大きい

年代	転入	転出	差
0歳代	123	85	38
10歳代	44	76	-32
20歳代	344	479	-135
30歳代	265	256	9
40歳代	158	119	39
50歳代	96	72	24
60歳代	67	38	29
70歳代	44	32	12
80歳代	37	29	8
90歳代	16	14	2

男性

女性



転入

転出

